

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	リスクマネジメント教育のための教員研修プログラムと教材開発および検証		
法人名	学校法人吉田学園		
学校名	吉田学園情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 吉田 松雄	担当者 連絡先	菊池 徳雄 TEL 011-272-6070

1. 事業の概要

国際競争の激化や規制緩和により、企業活動の「公平さ」や「透明性」が義務化され、あらゆる面でリスクマネジメントの体制整備が求められている。企業では新たなルールへの対応が推進されて、重要な経営課題として多くの企業で担当部門の新規設置が行われている。これからの職業人には、リスクマネジメントが必須の知識であることから、昨年度事業では、「教材」、「教員指導書」及び「確認テスト」を研究開発した。しかしながら、専門学校が教育を展開するためには、新たな考え方であるリスクマネジメントを教えられる教員が不足しており、早急に教員を育成する必要に迫られている。

本事業では、昨年度成果をもとに、専門学校のリスクマネジメント教育を円滑に実施するため、教員の教育力向上を目指した研修プログラムおよび教材を開発した。開発した教員研修プログラムを用いて、専門学校教員を対象に研修会を開催し、リスクマネジメントを教えることのできる教員の育成に努めた。また、教員の授業運営を支援するための映像による補助教材および問題集を開発し、リスクマネジメント教育の導入を支援するとともに、専門学校の教育力向上を図った。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

昨年度開発したリスクマネジメント教材、教員指導書は、委員参画の専門学校7校が教育導入を検討するなど、高い評価を得たが、リスクマネジメントの教育を専門学校が導入するためには、リスクマネジメント教育を実践できる教員の育成が急務であり、重要な課題であることがわかった。

本年度事業では、専門学校のリスクマネジメント教育を円滑に実施するため、教員の教育力向上を目指した研修プログラムおよび教材、問題集を開発した。開発した教員研修プログラムを用いて実施した研修会では、参加した専門学校教員の80%が、リスクマネジメントの授業運営に自信が持てたと回答し、高い評価を得た。また、専門学校委員より教員研修会で使用するために準備したプレゼンテーション映像を授業で使用したいとの要望が寄せられたため、学生用教材の内容に連動するプレゼンテーション映像を授業実施のための補助教材として開発することとした。さらに、調査では企業にとってマイナスイメージの強いリスクについて、リスクマネジメントにより業績向上へつなげた事例を取り上げ、企業におけるリスクマネジメントの方向性を調査・分析し、事例研究として調査報告書にまとめた。事業の成果は、学校法人立専門学校1793校に配布し、その普及を図った。

②事業により得られた成果

●リスクマネジメント教員研修プログラムテキスト

- ・研修を通して、企業・組織におけるリスクマネジメントの基本的考え方とその実践方法を理解し、専門学校のカリキュラムの一つとして、リスクマネジメントの授業を行える講師を育成することを目的とした。

- ・BCMS(事業継承マネジメントシステム)中心にリスクマネジメントの概念と実践方法を解説し、リスクマネジメントを効率よく学習できる研修テキストを目指した。

- ・内容 リスクマネジメント概要
 - BCMSとその手法
 - リスクの評価と査定、対応策とその手法
 - 内部統制業
 - ERM、CRSの説明

●教材CD-ROM

・委員からの意見により、教員研修で使用したパワーポイントの解説を授業運営の補助となる教材として開発を行うこととした。

- ・昨年度開発した学生用教材の前章に対応した映像を補助教材として開発した。
- ・昨年度教材と連動しているため昨年度の教材に添付して配布する事とした。

●問題集

- ・全300問の問題集を開発した。学習の成果を確認する試験としても活用できるものを目指した。

●教材CD-ROM

・委員からの意見により、教員研修で使用したパワーポイントの解説を授業運営の補助となる教材として開発を行うこととした。

- ・昨年度開発した学生用教材の前章に対応した映像を補助教材として開発した。
- ・昨年度教材と連動しているため昨年度の教材に添付して配布する事とした。

●問題集

- ・全300問の問題集を開発した。学習の成果を確認する試験としても活用できるものを目指した。

●攻めのリスクマネジメントによる企業価値の向上(調査報告書)

・マイナスであるリスクをプラスに転換し、企業業績向上に結びつけた3社の事例を調査分析し、今後のリスクマネジメントの方向性を探るとともに、その調査結果を開発した教員研修プログラムおよび教材に活用した。

③今後の活用

リスクマネジメント教育の普及、専門学校教育への導入を進めるためには、本事業の目的とした教員養成は欠くことのできない重要な課題である。開発した教員研修プログラムを活用し、委員として参画いただいたリスクマネジメント協会や全国専門学校情報教育協会の協力のもと、教員研修会を定期的に開催し、教員の育成に努める予定である。また、教員の育成、学生用教材、授業の補助教材、問題集(試験)による理解度の評価という一連の教育プログラムを開発し、専門学校でのリスクマネジメント教育を導入・実践するための環境を整備することができた。今後は、同教育プログラムを利用した教育展開を予定している本年度事業への参画専門学校での教育効果・成果・評価等をもとに実績を積み上げて、さらに充実した教育プログラムへと改善強化を図る。また、その実績をもとに多くの専門学校へ普及推進を図ることとしたい。さらに、高等教育機関としては、大学や短大も普及の対象と考え、今回の成果を広めるための活動を行う。将来的には、高等学校や中学校への普及について検討を行いたい。

④次年度以降における課題・展開

■今後の課題と教育展開

今後は、①現状のカリキュラムの中での位置づけを明確化すること、②教員研修会の開催と教員の修得知識・レベルの評価の実施、③学生にリスクマネジメントを定着させる教育法やe-learning教材の検討、④分野に特化したリスクマネジメントについての教育プログラム開発などを進め、さらなる改善強化を行うこととした。

グローバル社会に対応できる若者育成をしていくために、多くの専門学校でリスクマネジメント教育が実践されるよう本事業成果物を用いた教員研修会を企画開催をし、リスクマネジメント教育を実施できる教員の育成を行うこととしたい。また、専門学校がリスクマネジメント教育を実施するための教材、試験問題など教育プログラムの整備を図り、教員の支援をするとともに専門学校の教育力向上に努めることとする。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

●調査・分析の概要

本事業における研究は、インターネットや文献また実際の訪問などにより、マイナスのリスクをプラスに転化させ企業業績向上に結びつけた事例を通じて、リスクマネジメントの重要性を示唆することが目的である。

また、アンケートにより専門学校におけるリスクマネジメント教育の実施状況や課題を明らかにするとともに、本事業の成果について意見収集を行った。

●調査結果

守り中心のリスクマネジメントから脱却し、事業リスクを全体的に捉え企業価値の向上に結びつくリスクマネジメントの事例として、小林製薬グループ、パナソニック、石屋製菓の事例を分析した。

①「リスク＝コスト要因」との捉え方は、すでに企業を取り巻く環境からは古い考え方であることがわかった。リスク対応は、企業の評判資源(レピュテーション)を高めるための、格好のきっかけであり、「リスク・コミュニケーション」を「レピュテーション・マネジメント」の機会と考え、企業価値を向上させることが今後の企業に求められる。

②単なる義務や責任を超えたCSRへの取り組みを日頃から行うことが重要であり、リスクへの標準的対処策を押さえつつも企業独自のリスク解釈を取り入れ、関係形成のターゲットによって拡大されたステークホルダー解釈を採用することによって、戦略的リスクマネジメントが可能であることがわかった。

③リスクマネジメント教育ニーズ調査

対象 学校法人立専門学校1793校

回答数 156校

リスクマネジメント教育については、重要であると答えた学校は86.5%

教育を実施している学校は、22.4%

※重要とは思いつつながら教育の導入がされていないことが明確になった。

教育を行っていない主な理由としては、
教員の不足、教材の不足が挙げられている。

本事業の成果物については、活用したいと回答した専門学校が70.5%あった。

②カリキュラムの開発

教員研修プログラムについては、研修を通して、企業・組織におけるリスクマネジメントの基本的考え方とその実践方法を理解し、専門学校のカリキュラムの一つとして、リスクマネジメントの授業を行える講師を育成することを目的に開発を行った。リスクマネジメントを効率よく学習するためにBCMS(事業継承マネジメントシステム)中心にリスクマネジメントの概念と実践方法を解説し、30時間程度の研修内容をテキストにまとめた。

リスクマネジメントの授業実施を補完するため、当初、事例集を検討していたが、教員研修会のために準備したプレゼンテーション映像が授業の補助教材として非常に優れているとの専門学校委員からの意見により、学生用教材に連動したものを開発し、教員の支援および教育力の向上を図った。

③実証講座

■「リスクマネジメント」教員研修会

開発した教員研修プログラムテキストを用いて専門学校教員を対象に研修会を開催した。BCMSをグループワークを中心としたディスカッションを通して研修し、実際の授業の進め方を体感できるものとした。教員研修プログラムテキストの修囲、領域、レベルのなどについて検証を行った。

日時：平成21年1月28日(水) 13:00～17:00
1月29日(木) 9:00～16:00

会場：全経会館(東京)

参加者：15名(専門学校教員)

研修会終了後のアンケートでは、すべての教員がリスクマネジメント理解ができたと回答、リスクマネジメントの授業運営について参加者の78.5%が自信を持ったと回答し、領域、範囲、レベルなどについて適切であることが確認された。

④その他

リスクマネジメント教育について、昨年度事業に協力いただいた専門学校の多くは、開発した教材の内容、その範囲や領域、レベルなどが明確になり、教育に導入を検討したが、実際にリスクマネジメントの授業を実施する教員が不足しているが明らかになり、解決を図るべき重要な課題として本事業では、教員の育成をテーマとした。本事業の調査結果からも多くの専門学校において同様であることが裏付けられ、教員育成と教材の整備が重要であることが裏付けられた。

本事業では、専門学校がリスクマネジメント教育を導入するための教員研修プログラム開発を中心に、教員の授業実施を補完する教材の開発ならびに学期末試験としても対応可能な問題集の開発を行い、専門学校の教育力向上とともにリスクマネジメント教育の専門学校への導入の支援となる成果を上げることができた。

教員研修会は、本事業に協力をいただいたリスクマネジメント協会、全国専門学校情報教育協会の協力を得ながら継続的に実施予定である。また、リスクマネジメント教育の普及啓蒙について連携して活動を行うこととした。